

木下さんの まちづくり 年表

1982 → 2017

1982	東京都板橋区生まれ
1998	16歳 早稲田大学高等学院入学 ● 「早稲田商店会」の事務局の手伝いを開始。 場所／東京都新宿区早稲田
1999	17歳 高校2年生 ● 「全国リサイクル商店街サミット」開催。 場所／東京都新宿区早稲田 ①
2000	18歳 高校3年生 ● 「株式会社商店街ネットワーク」設立(社長)。 場所／東京都新宿区早稲田 ● 商店街ネットワークでの取り組みが評価され、「IT革命」で新語・流行語大賞を受賞。
2001	19歳 早稲田大学政治経済学部入学
2003	21歳 大学3年生 ● 東京財団の研究助成を受ける。 内容／アメリカを訪問。民間によるまちづくり事業を調査。 ● 「日本型まちづくりの終焉」(共著論文)で、フジタ未来経営賞学生奨励賞受賞。 ● 「ストリート広告」事業を開始。 場所／北海道札幌市、宮城県仙台市など
2004	22歳 大学4年生 ● 「株式会社商店街ネットワーク」の社長を辞任。
2005	23歳 一橋大学大学院商学研究科入学(経営学修士) ● 東京財団リサーチアソシエイト 内容／アメリカ・ヨーロッパへ渡航、まち経営の方法の視察調査と論文執筆。
2008	26歳 ● 「熊本城東マネジメント株式会社」を設立(代表取締役)。 ② 場所／熊本県熊本市 内容／ビル管理にかかわるゴミ処理事業の統合化。 年間450万円以上のコストを削減し、まちづくり財源を生み出す。負担のない財源づくりに取り組む。
2009	27歳 ● 「エリア・イノベーション・アライアンス(AIA)」を設立(代表理事)。 場所／東京都品川区大崎 ● 「札幌大通まちづくり株式会社」を設立、準備段階から参画。 場所／北海道札幌市 内容／エレベータの共同管理など。
2010	28歳 ● 内閣官房地域活性化伝道師に就任。 ● 「名古屋駅地区まちづくり協議会」シンポジウムに参加。 場所／愛知県名古屋駅前エリア 内容／まちづくり会社設立に向けた事業を考案。
2011	29歳 ● AIAとそのほか2社の合同で「エリア・イノベーターズ養成・ブートキャンプ」を開始。 内容／地域の事業計画を練る、集中合宿プログラムを発案・実践。 これまでに50地域以上が参加、20以上のまち会社設立につなげる。 ● 「株式会社machimori」の設立に取り組む。 場所／静岡県熱海市 ● 「株式会社北九州家守舎」と協力開始。 場所／福岡県北九州市小倉区魚町 内容／ブートキャンプ参加を機に、リノベーションスクール開催などで協力。 ● 「オガールプロジェクト」に参画。 場所／岩手県紫波町 内容／視察見学・広報事業などを担う。 ● 「株式会社タウンマネジメント石垣」に事業協力開始。 場所／沖縄県石垣市中心部 ● 「一般社団法人長崎サービスアンドディベロップメント」と協力開始。 場所／長崎県長崎市浜んまちエリア 内容／ブートキャンプ参加を機に事業協力。
2012	30歳 ● 「株式会社北九州家守舎」へ出資。 場所／福岡県北九州市小倉区魚町 内容／「メルカート三番街」再生事業、「リノベーションスクール」の開催などに協力。 ● 「エリア・イノベーション・レビュー」開始。 内容／まちづくりと経営を踏まえた有料ジャーナルを発行。 公共建築の失敗事例集「墓標シリーズ」が話題に。
2013	31歳 ● 「ブートキャンプ」開催の3社で「一般社団法人公民連携事業機構」を立ち上げ、理事を務める。 内容／「エリア・イノベーターズ養成・ブートキャンプ」の本格実施。
2014	32歳 ● 「株式会社湯のまち城崎」の設立にかかわる。 場所／兵庫県豊岡市城崎町 内容／城崎温泉の複数旅館のエレベータ管理共通化・効率化により、まちづくり財源を生み出す。 ● 「工事用仮囲いを活用した広告事業」を実施。 場所／愛知県名古屋市 内容／名古屋駅地区まちづくり協議会とともに立ち上げ、仮囲いへの広告を手がける。 ● 「TANEYA」再生事業。 場所／愛知県春日井市 内容／空き店舗をリノベーションして、シェア店舗に再生。
2015	33歳 ● 公民連携事業機構と東北芸術工科大学による「公民連携プロフェッショナルスクール」開校。 全国から180名以上が参加、初年度で30のプロジェクトを手がける。
2016	34歳 ● 「株式会社勝川エリア・アセット・マネジメント」を共同出資で設立。 場所／愛知県春日井市 内容／商業施設「ままま勝川」を手がけ、「TANEYA」事業と統合する。 ③
2017	35歳 ● 「大東公民連携まちづくり事業株式会社」の設立に協力。

